

market:update

金融経済の見通し

2022年2月14日

ECBは金融政策を転換へ

12月のユーロ圏の失業率は7.0%に低下して1999年1月1日のユーロ導入以来の最低水準となり、1月の消費者物価指数は前年比+5.1%に上昇しました。ECB（欧州中央銀行）の金融政策の方針変更を示唆するものが増えてきています。

ECBの利上げの基準が満たされよう

堅調な成長と経済活動の完全な再開が見込まれることから、年末には失業率が6.5%まで低下する可能性さえあります。労働市場が堅調に推移すれば、すでにインフレが高すぎる環境下で、賃金が顕著に上昇する基盤が整う可能性があります。

ECBは3月に2023年と2024年の最新のインフレ見通しを発表する予定です。上記のようなサプライズを背景に、両年ともインフレ目標を上回るインフレ率が示される可能性が高いとみられます。これは、政策金利引き上げの基準を満たすこととなります。

したがって、ECBが8月に資産購入プログラムの完全終了を決定すると予想します。そして、それは9月と12月に今年計2回の政策金利引き上げを行う基盤となります。ECBが2回の利上げを行うという予想は、金融市場が40bpの利上げを織り込んでいることと大きな乖離はありません。

FRBの利上げは6回と予想

FRB（米国連邦準備制度理事会）の利上げ見通しを再び修正し、年内の利上げ回数は6回、各会合で0.25%ずつ

利上げを行うと予想します。米国のインフレ率は、ユーロ圏よりもすでにかかなり高い水準にあります。また、12月には消費者物価指数におけるバスケット内の半数以上の項目が5.0%以上の値上がり記録しており、インフレは既により定着しているようです。したがって、米国のインフレはもはや一部のカテゴリーに起因するものではありません。

また、全米自営業者連盟（NFIB）の発表する中小企業楽観度指数は、雇用の未充足度と賃上げ意向で記録的な値を示しています。つまり、米国の労働市場はますます過熱の兆しを見せているのです。

米国経済の過熱感、歴史的な赤字額に達している貿易収支の推移にも表れています。つまり、米国は、国内で生産するよりも大幅に多くのものを輸入しなければ需要を賄えないのです。これまでの過去最大の貿易赤字は2006年9月の650億ドルで、当時の景気過熱感を示すものでした。



Edgar Walli

メツラー・アセット・マネジメント GmbH
チーフ・エコノミスト
エドガー・ヴァルク

1. 本資料は、投資一任契約を踏まえた上で、メツラーグループが提供する情報をメツラー・アセット・マネジメント株式会社が翻訳・作成したものです。
2. 本資料は、特定の年金基金及び機関投資家向けに作成したものです。
3. 本資料は、当社が金融市場に関する情報提供のために作成した資料であり法令に基づく開示資料ではありません。
4. 実際の投資には、有価証券の価格変動、流動性、信用、カントリー、為替変動等の諸リスクが発生し、損失が生じる場合があります。投資元本を割り込むこともあります。
5. 手数料・費用等の投資家の負担は、個別の投資一任契約により異なりますので、その合計額や上限額をあらかじめ表示することはできません。
6. 契約の際には事前に契約締結前交付書面等を必ずお読みください。
7. 本資料に掲載された内容、意見、予測は今後予告なしに変更される場合があります。当社はその変更等に起因する損害について一切責任を負いません。
8. 本資料は信頼できると判断される情報に基づき作成していますが、当社はこれら情報の正確性や信頼性、完全性を保証するものではありません。
9. 本資料で紹介している運用実績等は、過去の実績によるものであり、将来の運用成果の獲得を示唆あるいは保証するものではありません。
10. 本資料の全部又は一部を、当社の事前承諾なしに複写、複製若しくは配布することを禁じます。
11. 本資料に引用した各インデックス（指数）の商標、著作権、知的財産権その他一切の権利は、各算出元に帰属します。また、各インデックスの算出元は、インデックスの内容を変更する権利および発表を停止する権利を有しています。